よこはま地球村

横浜市国際学生会館ニュース

学生会館のマスコット
ラブアースベア

2022 No.112 夏 summer

横浜市国際学生会館は、留学生等への宿泊施設の提供と市民の国際理解を目的として横浜市が開設し、
公益財団法人横浜市国際交流協会が指定管理者として管理・運営しています。

副館長着任！挨拶　坂本 淳 (さかもと じゅん)

みなさん、こんにちは。国際学生会館の坂本です。

4月１日に着任しました。実は、10年以上前になりますが国際学生会館で一度勤務した経験があります。当時は国が「留学生10万人計画」を達成した後の新たな目標として「留学生30万人計画」を策定したぐらいの時期でした。大学のグローバル化、日本社会のグローバル化の流れの中で、3年余りを鶴見の本町通り界隈で過ごしました。秋まつりや祭礼など留学生が地域の方々と触れ合う場面がとても印象に残っています。鶴見は独特な歴史と文化を持つとともに外国人住民の増加率も現在進行形で高く、多様性に富んだまちづくりを進めていて、国際学生会館の存在も一役買っていると思います。

沖縄料理やエスニック料理のお店などこれからの鶴見ライフが楽しみな一方で、局面が変わってきたとはいえコロナ禍で今後の見通しがたちにくい状況が続いています。日本そして横浜を選択してくれた留学生が学業に専念できる環境を整えるとともに、地域での市民交流促進に尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願いします。

新入居者　歓迎会の開催

４月20日（水）午後7時から会館３階ホールにて新入居者41名を迎えた歓迎会が開催されました。アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター所属のドナルドさんによるアメリカ民謡のバイオリン演奏（オンライン）、入居者の自己紹介、ビンゴゲームがにぎやかに行われ、楽しい１年のスタートを切りました。

ドナルドさんによる
バイオリン演奏

学生会館3階ホールにて集合写真

学生会館からのお知らせ 参加者募集！

申込は<045−507−0121>まで
詳細は学生会館HP<https://yish-yoke.com>をご覧ください。

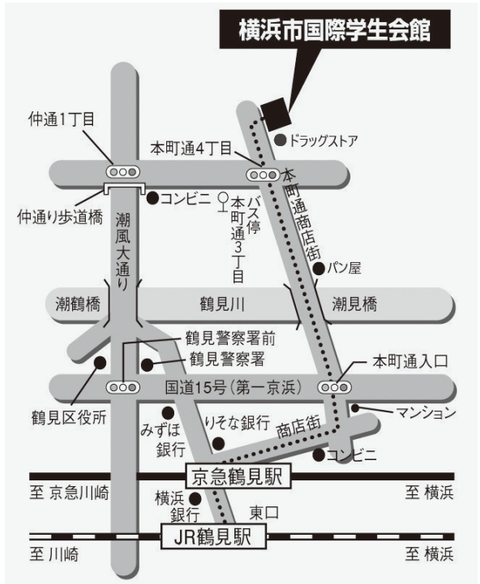
◆留学生による文化講座
〜もっと知りたいネパール・ポカラの今〜 <8/6(土)>

ネパールからの留学生が故郷のポカラを中心に、ネパールの日常生活について日本語で紹介します。なかなか海外に行けない今、留学生から生の声を聴いて海外の文化に触れてみませんか？

ネパール国旗

- **日　時**　8/6（土）　13:30-15:00
- **会　場**　横浜市国際学生会館　3階ホール
- **対　象**　中学生以上
- **定　員**　20名
- **費　用**　600円、中高生300円（飲み物とお菓子つき）
- **申込み**　6/11（土）9:00から電話にて先着順受付
- **ＴＥＬ**　045-507-0121

ポカラから臨む
ヒマラヤの絶景



交通案内　JR京浜東北線・京浜急行線「鶴見駅」より徒歩15分
JR鶴見駅東口より横浜市営バス15系統（4番乗り場）に乗車5分、本町通3丁目にて下車、徒歩1分

開館時間　火曜日〜土曜日　9:00〜21:00
日曜日、月曜日、祝日 9:00〜17:00
休館日 毎月第4月曜日、年末年始

横浜市国際学生会館ニュース
よこはま地球村
2022年　夏号
2022年6月1日発行 第112号

■発行：横浜市国際学生会館（YISH）
〒230-0048　横浜市鶴見区本町通4-171-23
Tel.045-507-0121　Fax.045-507-2441
Email：yish@yoke.or.jp
ホームページ：https://yish-yoke.com
■印刷／デザイン：ツルミ印刷株式会社

報告 共催講座 寺尾地区センターin鶴見 2/19(土)実施

〜横浜市国際学生会館の留学生に学ぶ〜西安の留学生が語る故郷と描く短編アニメーション

寺尾センター
寺尾地区センター・鶴寿荘
指導員　**松浦 マツヱ**

今年は東京藝術大学大学院生の陳 佳音さんを講師に迎え、陳さんの故郷、中国・西安（シーアン）*1とアニメーション作品の紹介*2を、学生会館から寺尾地区センターの講座会場にオンライン配信していただきました。私達にとっては初めてのオンラインでの開催で少し緊張しましたが、陳さんが描かれたアニメーションから優しさ、努力と勇気をたくさんいただきました。地区センターでは中国語講座を毎週土曜日に開催しているため、当日は中国語の講師や生徒さんも多く参加されました。「会場で直接お会いしたかった」、「もっと中国語で話をしたかった」、「中国の事をさらに聞きたい」など活発なご意見をいただき、コロナ禍でもオンラインによる交流ができて良かったと思います。陳さんの今後のご活躍を心からお祈り申し上げます。

陳 佳音（ちん かのん）
中国の西安（陝西省）出身。西安美術学院を卒業後、2017年に来日。東京藝術大学大学院研究科アニメーション科を今年3月に卒業。

皆さん、こんにちは。講師の陳 佳音です。来日のきっかけは、故郷の西安美術学院の授業で、現在の指導教官の作品と出会い、個人的な体験をユーモアとペーソスを交えた表現の豊かさに衝撃を受けたことです。同時に短編アニメーションという世界を初めて知り、自分がやりたかったことはこれだと実感しました。

講座では私の初恋に因んだ甘酸っぱい体験を描いた「Ciao Ciao」*2という作品を紹介しました。言葉でうまく伝えられない心の内を作品に込め、観た人と共感できたら最高です。参加者から中国語での質問も受け、私の作品を好意的に見てくださっていると強く感じ、うれしく思いました。卒業後は、自由に表現ができる日本で制作を続けたいと思います。

＊1 西安（シーアン・旧名長安）は3,000年の歴史を持つ歴史的古都。同時に人口約1,000万人の近代的大都会。西遊記で知られる玄奘が経典を求めインドに旅立ち帰還した都であり、シルクロードへの玄関口でもある。

＊2「Ciao Ciao」はイタリア語で「こんにちは」と「さようなら」両方の意味。初恋の相手との出会いと別れは同時に別れと再会なのかもしれない、という意味を込め命名。中国語ナレーションと字幕、日本語翻訳も付けて紹介された。

シリーズ 母国の風景

2024年首都移転（インドネシア）ジャカルタからヌサンタラへ

ルサンディさん

私の故郷は赤道直下の熱帯雨林、カリマンタン（別名：ボルネオ）島のサマリンダです。2024年に首都移転が計画されているヌサンタラとは約300キロの距離でとても近いです。新首都と故郷のサマリンダがある東カリマンタン州は人口約377万人、石油、石炭、天然ガスの宝庫で、ヌサンタラとバリクパパンにはそれぞれ国際空港と国際港があり、２大拠点としてインドネシア経済に大きく貢献しています。首都移転は、ジャカルタに集中する政治・経済を分散させ、バランスをとる上でとても重要です。

カリマンタン島は熱帯雨林の島としては世界最大級であり、河川が多く町と町、市と市をつなぐ橋が多数あります。地震、津波、洪水等の自然災害が多く、近年の気候変動による集中豪雨の影響で、土砂崩れが深刻です。

来日前はインドネシアで橋の補修・保全技術のコンサルタントをしており、現在、日本の文部科学省の奨学金を得て、大学院で土木工学を学んでいます。日本の土木技術、耐震性・風力に強い橋の先進技術を学び、帰国後は人々の生命を守る仕事として役立てたいと思います。

新首都は再生エネルギーを活用し、環境に配慮した街づくり、自然と共存する暮らしを目指しています。横浜市のごみ分別システムも新首都で広めていきたいと思っています。

（横浜国立大学大学院 都市イノベーション学府 博士課程３年
ノア・ルサンディ）

村本館長とレジデントアシスタント座談会

4/5(火)

横浜市国際学生会館（YISH）には、4月時点で21の国・地域から来た77人の留学生・研究者が住んでいます。この中にはレジデントアシスタント（RA）の役割を担って入居している学生が7名います。RAの役割は学生会館が行う事業に協力するほか、入居者間の親睦事業の企画・実施や、災害時の避難誘導など、入居者が楽しく、安全に暮らせるよう協力してくれています。

2022年度に新たにRAとして入居した4名と、今年度も引き続きRAとして活躍する3名に活動への期待や思いを聞きました。

館長：最初に、RAに応募された動機を教えてください。

篠原：小学生の頃、インドに数年住んでいたことがあります。海外の方とのコミュニケーションが好きで留学を考えていましたが、コロナ禍で難しいため日本で留学生とコミュニケーションがとれ、学生会館で疑似留学ができると思ったからです。

佐藤（秀）：様々な事に挑戦することが好きな性格で、中学3年生の時、ニュージーランドに短期留学し、海外の方とのコミュニケーションから多くのことを学びました。大学生活の中でも新たな経験をしたいと思い、大学のHPで学生会館を知り応募しました。

渋谷：学部生の頃、スリランカに1年間滞在しNGOを支援する機会がありました。現地で外国の方々と生活を共にした経験をもとに、この学生会館でも留学生の支援ができると思い応募しました。

相澤：大学3年時に、大学の国際寮でレジデントアシスタントを体験し、留学生と親友と呼べる仲になりました。文化や価値観の違いを発見し、面白いと思いました。そこで、もっと多くの留学生と出会い、自分を成長させたいと考えたからです。

館長：先輩としてRAの体験談を語ってください。

佐藤（雄）：昨年、三渓園に紅葉を楽しむ会を企画して18人ぐらい学生を引率しました。これまで、あまり友人がいなかったという学生が、これをきっかけに話ができる友達ができたという話を後で聞き、企画した甲斐があったとうれしく思いました。

張：健康診断で学生に付き添いクリニックに行った際、医療関係者と学生との間での通訳を行い、自分の存在意義を改めて感じることができたことが、印象的でした。

館長：新人RAとして具体的に企画してみたいことは何ですか？

篠原：バトミントンをよくするので「バトミントンサークル」等を立ち上げてみたいです。スポーツを通じて交流できる機会を増やしていけたらと思います。また、図書室にいってみたら結構、学生達が集っていたので、なにか「勉強しながら雑談できるスペース」を作れたらいいなと思っています。

佐藤（秀）：空手ができるので、日本文化紹介も兼ねて空手を教えることができないかな、と思っています。

渋谷：私が海外で現地の人々との意思疎通をする時、それぞれの文化の発信を積極的に行うことで協力関係が築けました。具体的には、書道や折り紙を通じて文化交流を図りたいと思います。

相澤：僕は「食」を通じた交流会をやってみたいと思います。それぞれの国の代表的な料理を各学生が作って持ち寄り、話し合ったり食べたりしながら、それぞれの国のことを好きになってくれるような会を開きたいなと思っています。

館長：会館での生活を通じて英語力はどれくらい上達しましたか？

田中：日常会話は結構できるようになったと思います。留学生は、日本語が非常によくできる人と全くできない人との両極端です。日本語が全くしゃべれない人だと、どうしても英語でないとなかなか意思疎通ができません。積極的に英語を使ううちに、日常会話は上達したと思います。

張：私は英語力というよりか、伝達能力、自分のことを相手に伝えるコミュニケーション能力が良くなったのではないかなと思っています。

篠原：どうやって留学生とのつきあいを広げていったのですか？

田中：まずは、先輩のRAが仲良くしていた人たちと仲良くして、徐々に顔見知りが増えていった感じです。でも、一番大切なのは日々の生活の中での「挨拶」でしょうか。一度、無視してしまうと次、挨拶しにくくなります。最初に挨拶から始まり、駅まで一緒に歩いていくとか、特に学生会館の外や、街の中で学生を見かけた時の対応が大切です。

張：イベントに積極的に参加し、特に友達がいなそうな人とか、自分から話しかけにくそうな人を見つけて、こちらから声をかける。自分からコミュニケーションをとるということは大事だと思います。

館長：最後に、会館でのRA経験を将来どのように生かしたいですか？

張：ここでの生活を通じて向上させた英語力、コミュニケーション能力は、将来仕事で外国の人とのコミュニケーションを図る際に生かせると思います。

相澤：僕は、「日本の食」、「海外の食」を広めていきたいという夢があります。外国の人の口に合わない日本食があれば、どうすればよいのかコミュニケーションを通じて改善を図りたいと思います。

渋谷：相手が日本人でも海外の人でも、相手の要望や考えを培われたコミュニケーション能力を通じて、きちんとくみ取れる人間になりたいと思います。

佐藤（秀）：よりたくさんの刺激を受けて自分のやりたいことや目指したいことを見つけていきたいと思います。

篠原：日本から開発途上国などの海外の方々を援助する仕事をしたいと思っています。そこで、会館で培うことのできるコミュニケーション能力を生かしたいと思います。

田中：僕は旅行が好きなので、友達になった人の国は、ぜひ訪ねてみたいと思います。例えばモンゴルとか。エジプトとか。

佐藤（雄）：普通の大学生活ではなかなか体験できないイベントの企画や運営の経験を将来の仕事に生かせたらと思います。今後は留学生と地域をつないだり、新しく交流の輪を広げれば会館のためにもなり、自分自身のスキルアップにもなると思います。

館長：皆さん、今日は長時間ありがとうございました。ぜひ、この1年、夢を実現できるよう皆さんで、また学生会館職員と一緒に協力して頑張っていきましょう！

2022年度 RA レジデントアシスタント メンバー

【前列　左から】

田中明邦（RA2年目 慶応義塾大学 商学部3年）

張　馨心（RA2年目 横浜市立大学 大学院 データサイエンス研究科1年）

佐藤雄馬（RA2年目 神奈川大学　外国語学部3年）

【後列　左から】

篠原秀介（RA1年目 関東学院大学　経済学部3年）

佐藤秀磨（RA1年目 横浜市立大学　国際商学部2年）

渋谷颯人（RA1年目 横浜市立大学大学院　生命医科学研究科2年）

相澤爽太（RA1年目 神奈川大学　人間科学部4年）

2022年度 YISH留学生会会長紹介

任 金龍（にん きんりゅう）
東京都市大学 環境学部4年
故郷の鉱山による環境汚染のため、小学校時に家族で南京に移住。環境技術が先進的な日本で学びたいと考え、東京都市大学環境学部に留学。帰国後は電気自動車普及のビジネスをしている父と共に脱炭素社会を目指した仕事をしたいと希望している。

皆さんこんにちは。東京都市大学 環境学部4年生の任 金龍（にん きんりゅう）です。昨年は所属大学の留学生会の会長を1年間務めていましたので、短いですがその経験を少しでも生かせたらうれしく思います。

昨年4月に学生会館に入居以来、月1回、RA（レジデントアシスタント）が企画する交流イベントには毎回参加しています。同じ建物内の潮田地区センターの体育館でバスケットボールをしたり、学生会館のホールで卓球するなど、スポーツも楽しんでいます。おかげで友達もたくさんでき、充実した生活を過ごせて感謝しています。

学生会館に住むとゴミの捨て方や隣室の騒音など、生活面でのトラブルも大きな問題ですよね。そんな時、顔見知りだと話しかけやすい。お互いに生活情報を教え合ったり、学んだりしやすい。でも、隣に誰が住んでいるか顔を知らぬままだと、トラブルになりやすい。だから「交流」は大切なんです。ただ、交流会の参加者が毎回固定メンバーになりやすい。

学生は勉強以外、アルバイトで忙しいので、予定を早く知らせること。また開催する曜日や時間帯、プログラムの内容も異なるチョイスがあると、いろいろなタイプの学生が参加しやすくなるのではないでしょうか。

私は、小さい頃から日本の「NARUTO」や「ワンピース」のアニメを見て、自由や冒険に憧れて日本に興味を持ちました。中国の学校は勉強ばかりで、部活やサークルがありません。日本の学校は勉強も大切だけど、そればかりではありません。自由や遊びもある。人間関係も大切です。日本に来ていろいろな体験ができたこと、それが私の財産です。

とにかくできるだけ、たくさんの学生が知り合い、楽しい生活を送ってほしいと願っています。そのために、協力できればと思っています。よろしくお願いします。

留学生会（YRA）活動歳時記

RAは、毎月第3水曜日の午後7時～8時に全入居者を対象としたYRAミーティングを開催しています。入居者間の親睦を図る交流プログラムの企画や実施に向けた意見を聞いたり、生活環境改善に向けた提案等の議論をします。入居者の中には日本語を話さない学生もいるため、英語を交えた進行となります。交流プログラムは日本文化紹介やスポーツ交流に人気があります。皆、和気あいあいと楽しく過ごしています。

毎月第3水曜　YRAミーティング

5月　スポーツ大会

9月　清水焼マグカップ絵付け体験

11月　三渓園　紅葉狩り

よこはま地球村　2022　No.112　夏